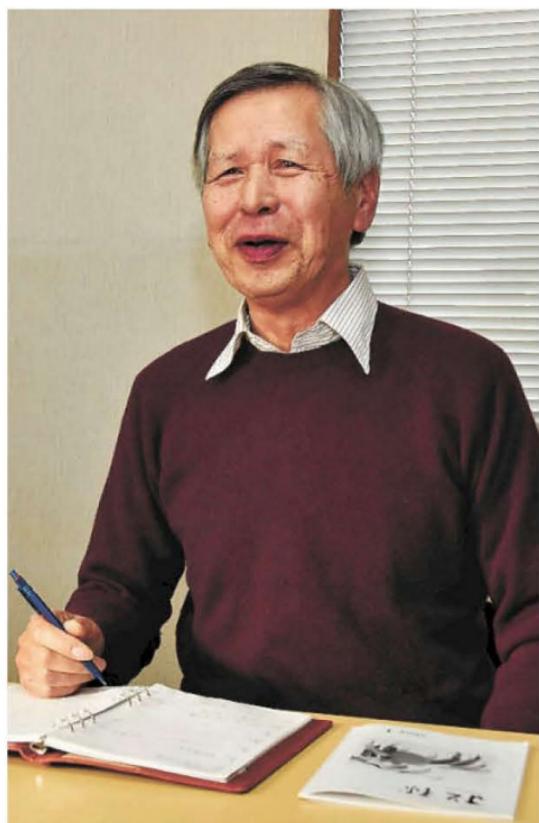


# 歌会始 和に思いを込めて

## 佳作 坂城の竹内睦夫さん



佳作選出を喜ぶ竹内さん

和太鼓の五体揺るがす重低音我は獣ぞ我は勇魚ぞ

## 和太鼓の響き 高揚する心

和太鼓の五体揺るがす重低音我は獣ぞ我は勇魚ぞ

だが、9月に思い出して推敲し、応募した。

「太鼓がドンドンと体に響

き、気分が盛り上がる感じ」

を詠んだ。お題の「和」から

竹内さんは40年以上俳句を詠んでおり、短歌の歌集も好きで読んでいたという。長野

和太鼓を思い付いたといい、

市松代町の湯本牧人さんが主宰する俳句誌「松毬」の同人

音で体が震え「原始的、さら

に言えば動物的な感情」

が湧いた様子を表現している。

で、同誌の編集長を務めている。坂城町公民館の俳句講座

では講師を担う。

普通段の作品作りで心がけて

昨年5月、仕事場のパソコンで調べ物をしていたところ、偶然歌会始のお題が「和」

だど知った。その場で仕事の手を止めて作り、書き留めた。しばらくそのままにしておい

たが、9月に思い出して推敲し、応募した。

葉に出会い、人に出会う」。

「これまで短歌はあまり作

ることがなかったが、勉強し

ていきたい」と話している。

たが、9月に思い出して推敲し、応募した。

光栄」と喜んでいる。

たが、9月に思い出して推敲し、推敲し、応募した。

光栄」と喜んでいる。

たが、9月に思い出して推敲し、推敲し、応募した。

光栄」と喜んでいる。

たが、9月に思い出して推敲し、推敲し、応募した。

光栄」と喜んでいる。

たが、9月に思い出して推敲し、推敲し、応募した。